地産地消ウィーク
ごはん　和風サラダ
ケチャップ肉団子
なめこのみそ汁

ほぼ日刊 夢の華
carrat

第７６２号
神町中学校　夢色通信社
令和２年11月20日

山形新聞　少年少女の声（１１月２０日より）

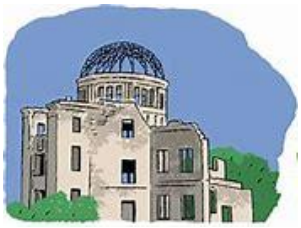
平和を考える「分岐点」　２年　伊藤 星冬

今年、神町中では平和学習の一環として「お母さんの被爆ピアノ」を鑑賞し、実際に被爆ピアノを招きその音色を聴きました。映画の鑑賞が終わった直後に、映画をつくった五藤利弘監督からのメッセージが映し出されました。五藤監督は、「原爆や戦争が分からなくても、この映画を通して、何か少しでも感じてくれたらうれしい。」と話していました。

自分もこの瞬間から原爆の悲惨さ、戦争の恐ろしさを伝えていかなければならない立場になったんだと思いました。

被爆ピアノは、原爆の悲惨さを背負っているので重たい音がするのだと思っていました。しかし実際は、とても明るく前を向いているような音でした。それは、この被爆ピアノがみんなにとって平和について考え行動するための「きっかけ」「分岐点」になるからだと思いました。被爆ピアノは、ただ戦争の悲惨さを伝えるだけではなく、これからの平和をつくっていくためにあるのだと思いました。

映画を見、被爆ピアノの音を聴き、過去の戦争を伝えていくことは、平和を守ることであり平和に気づくためであることに気づかされました。自分も、もっと気づき、伝えていきたいと思います。



奏でた 戦争を語る音色　２年　齋藤 華奈

私は被爆ピアノコンサートで、被爆ピアノを弾くという貴重な体験をさせていただきました。私は戦争や原爆には全く興味がありませんでした。「どうせ、私には関係のない話だ。」と決めつけて、何も知ろうとしていませんでした。

しかし今回、「お母さんの被爆ピアノ」という映画を見て考えが変わりました。原爆によって何万人という尊い命が奪われたこと。今私達が生きている日常は奇跡であること。いろいろなことを深く考えさせてくれる映画でした。この映画のおかげで被爆ピアノが戦争を知らない人たちにとって、戦争を教えてくれる貴重なものだということを知ることができました。

初めて被爆ピアノを目にした時は、今のピアノとは全く違う、年季の入った鍵盤で少し茶色くなっていることに気づきました。その鍵盤には、どれだけの人の思いが詰まっているのだろうと思いました。そして被爆ピアノを弾きました。その音は、一音一音に思いが詰まっていて、温かいけど、悲しいようでした。戦争を語ってくれるような音で、世界中の人にこのピアノの音を聞いてほしい、そして平和について考え、涙を流してほしいと思いました。

弾けなくなったピアノが修復され、「被爆ピアノ」として各地をまわっている理由を理解し、これからの平和についての勉強に生かしていきたいと思いました。また、ピアノを習っている者として「被爆ピアノ」のように一音一音に自分の思いをのせて弾いていけたらいいなと思いました。